



全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発行日 2018年12月25日

発行NO 2018 - 15号

- **21日、政府は平成31年度予算案を閣議決定**
- **同日、平成30年度第二次補正予算案も閣議決定**
- **TPP11等の発効を見据えて競争力強化のため、畜産クラスター事業に560億円、スマート農業推進のための事業を予算化**

- 平成31年度予算（農林水産予算約2兆4千億円）と平成30年度第二次補正予算（農林水産予算約5千億円）の政府案が決定しました。今回の予算をどのように活用してこの難局を乗り越えるのか、年明けに開会となる次期通常国会（予算国会）での審議が注目されます。
- 予算案では「スマート農業」の推進も注目されています。生産現場の省力化の推進にロボットや人工知能（AI）などの先端技術を活用できるように、技術開発や実証に62億円が充てられました。

これまでの全日畜の要請や関心事項等について点検してみます

- ① **協定発効を見据えた万全な国内対策を**
 - 国内対策として体質強化や競争力強化のための施策について十分な予算確保を強く要請。
 - ⇒ 収益性向上等に必要な機械導入や施設整備等を二次補正で「畜産クラスター事業」として予算措置。
- ② **畜産環境施策の充実を**
 - 「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」の本格施行から14年が経過、老朽化が進む当時整備した施設の環境対策を強く要請。
 - ⇒ 畜産クラスター事業において、家畜排せつ物処理施設の整備のための環境優先枠を設定し、施設の長寿命化対策を措置。
- ④ **畜産経営安定対策制度の充実を**
 - 特に中小規模の家族経営を中心とした畜産経営への支援を強く要求。
 - ⇒ 肉用子牛生産者補給金制度について、①肉用牛繁殖経営支援事業を生産者補給金制度に一本化、②保証基準価格等を現在の経営の実情に即したものに直し。
- ⑤ **「スマート畜産」の推進は喫緊の課題**
 - 畜産経営における労働力負担軽減や省力化に資する「スマート畜産の推進」を強く要請。
 - ⇒ スマート農業の実現、最先端のスマート農業の技術開発及び実証に関する予算が前倒しで予算化。
- ⑥ **就労目的の外国人労働受入れを**
 - 畜産経営における人手不足解消への取組みを強く要請。
 - ⇒ 新たな外国人材の受入れ制度を導入するために出入国管理法を改正。改正後、業種ごとの「基本方針」と「運用方針」について、各業種を所管する省庁で作業中。来年4月の導入目途。

(文中での団体の略称標記について)

・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）

・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）

・協同組合 日本飼料工業会（工業会）

・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）

第3回「理事会」を開催

三団体（工業会・全日基・全日畜）共催での 第6回 畜産経営者交流会 の開催を決定

◎ 全日畜は、12月14日（金）第3回理事会を開催し、今年の活動の点検と年度末までの事業計画及び来年度の運営方針等について審議を行いました。

◎ 審議の中で、生産現場を担う畜産経営者との交流の場として、平成27年に三団体（工業会・全日基・全日畜）共催でスタートした「畜産経営者交流会」について、来年2月に都内で第6回目を開催することを決定しました。

（1年の活動を振り返って金子理事長が挨拶）



第3回「運営委員会」を開催

第二世代の全日畜の在り方について 中間レポートをとりまとめ

◎ 全日畜は、12月12日（水）、第3回運営委員会を開催し、全日畜が10年の節目を迎えたタイミングを捉えて、年度当初から検討を続けてきた「第二世代の全日畜の在り方」（今後10年の組織運営等の方向性の検討）について、中間的な論点整理を行いました。

◎ 中間レポートは、組織編、事業編、会費編の3編に整理され、これまでの10年間の歴史を踏まえて、抱える課題、対応方針の提案、そして当面の対応方針等を整理しました。

◎ 委員会では、この整理を基に、当面の対応事項と、中長期の対応事項に整理して、当面の対応事項については次期総会等に反映させていく準備を始めることとしました。

JRA事業（スマート畜産調査普及事業） 第2回「技術検討委員会」を開催

「全日畜シンポジウム in ちば」の開催を決定

◎ 12月19日（水）、全日畜が今年度からJRA（日本中央競馬会）事業として実施している「スマート畜産調査普及事業」に関する第2回技術検討委員会を開催しました。

◎ 10名の外部委員で構成する当委員会は、この事業の実施方法等の検討と事業の進捗管理を担っています。

◎ これまでの事業実施状況を点検の結果、取巻く情勢が加速して進行していることを踏まえて、今年度中にシンポジウム開催を1回追加することを決定しました。（委員会の会場より）

（活発な議論が交わされた委員会の様子から）



「全日畜シンポジウム in ちば」の概要紹介

- 開催日 平成31年2月19日（火）
13:30～17:00
- 会場 成田ビューホテル（千葉県成田市）
- テーマ 「スマート畜産への期待」
（テーマ：畜産環境技術）

- ◎ 基調講演 「畜産環境の技術的課題」
農学博士 羽賀 清典 氏
- ◎ 話題提供 「豚舎床暖房システム」 中久保 亮 氏
「堆肥ロボット」 宮竹 史仁 氏
- ◎ 講演後にモデレーターを介して会場のみなさんと意見交換を行います。

（文中での団体の略称標記について）

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）
- ・協同組合 日本飼料工業会（工業会）
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）